

## BSE問題をめぐるコミュニケーションと牛肉価格

### 平成13年

- 8月6日 千葉県のと畜場で乳牛が敗血症として診断されて、全廃棄処分された。この牛は家畜保健衛生所に頭部だけが提供され、残りはと畜場からレンダリングに回された。
- 8月24日 千葉県家畜保健衛生所で病理検査で空胞を発見  
千葉県から農林水産省へその旨を連絡
- 9月10日 農林水産省が国内初のBSE感染牛の疑い例を発表。その際、当該牛は食肉に供されず、焼却処分されたはずと回答
- 12日 千葉県、厚生労働省は農林水産省に、上記当該牛は焼却されずにレンダリング処理されていたと連絡
- 14日 農林水産省がBSE感染牛は、焼却されずにレンダリング処理されていたとして、発言を訂正した
- 週明け18日から、卸売価格の下落が始まった  
17日：1130円、18日：1072円、19日：982円  
(kg当たり、省令価格。以下同様)
- 10月4日 農林水産省が、肉骨粉の使用を禁止
- 11日 東京都の食肉卸売市場でBSEエライザ検査陽性牛が見つかった  
採取された牛の特定ができなかったため、東京都は同時に出荷された肉と内臓の回収を行った  
(確認検査の結果は陰性)
- 翌12日：472円、全頭検査前の最安値
- 18日 厚生労働省と農林水産省の両大臣が、BSEの全頭検査の開始、特定危険部位の除去などを発表。マスコミは、これを「安全宣言」として報道した
- 26日 全頭検査前に市場に出回った在庫牛肉を買い取る「牛肉在庫緊急保管対策事業」の発表、開始
- 11月21日 国内2例目のBSE感染牛の確認を公表。
- 22日に、卸売価格急落、21日：715円、  
22日：579円
- 30日 国内3例目のBSE感染牛の確認を公表
- 卸売価格が下がり続ける  
30日：527円、12月3日：457円、4日：532円、  
5日：400円、6日：427円、7日：351円
- 12月7日 卸売価格が、年内の最安値を記録
- 7日：351円

**平成14年**

1月23日 雪印食品が、「牛肉在庫緊急保管対策事業」に、豪州産牛肉を国産牛と偽装して申請したことを発表

1月の卸売平均価格は 456 円

2月 1日 近畿農政局長名で雪印食品を刑事告発

15日 食肉加工販売会社カワイによる、輸入牛肉の国産牛への偽装が発覚

2月の卸売平均価格は 360 円へ下落

3月 5日 全農系の鶏肉加工会社くみあいチキンフーズによる、輸入鶏肉の鹿児島県産への偽装が発覚

11日 茨城県の農業協同組合による、豚肉の産地偽装が発覚

12日 千葉県の農事組合による、豚肉の産地偽装が発覚

3月の卸売平均価格は 354 円で年内最安値

4月 2日 BSE問題に関する調査検討委員会が調査報告書を提出

30日 雪印食品が解散

4月の卸売平均価格は 614 円。以後、価格は回復基調

5月13日 BSE 4例目の確認を発表

6月11日 関係閣僚会議が、食品安全基本法、食品安全委員会の新設等を決める

28日 日本食品の牛肉偽装が発覚

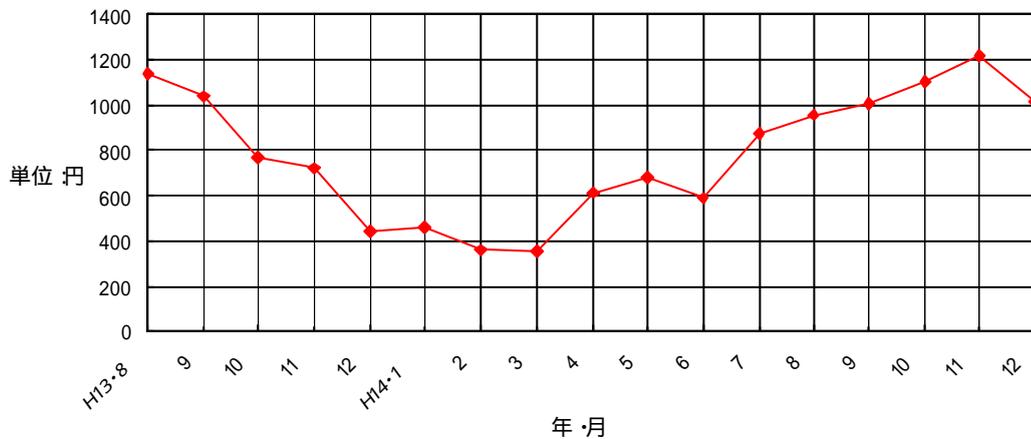
6月の卸売平均価格 590 円から、7月 879 円へ上昇

8月 6日 日本ハムグループによる牛肉の産地偽装が発覚

22日 BSE 5例目の確認を発表

9月の卸売平均価格は 1005 円、BSE発生後、初めて1000 円台を回復

**枝肉の1kg当たり卸売価格の推移**



◆ 枝肉卸売価格 (省令規格:去勢和牛、乳用肥育去勢牛、その他去勢牛のB-2、B-3規格を合わせたもの)